

学校の教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自ら進んでよく学び、協力して働く生徒 ・ 規律を守り、責任を重んずる生徒 ・ 心身ともに健康で、思いやりのある生徒
----------------	---

国が示す総合的な学習の時間の目標

探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 探究的な学習の課程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解するようにする。

(2) 実社会や実生活の中から問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。

(3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。

学校の総合的な学習の時間の目標

- 1 総合的な学習の時間を「はるえタイム」と称し、全校テーマ「ともに生きる～SDGs達成に向けて～」の下、1年「【は】つけん・気付く」、2年「つな【る】」、3年「【え】がおを創り出す」を学年テーマとする。
- 2 自ら課題を設定し、主体的・創造的・協働的に取り組みながら、課題の解決に必要な知識・技能を育成する。
- 3 探究的な学習の過程において、ICTを効果的に活用し、情報の収集・整理・判断・発信などの力を育成する。
- 4 キャリア教育を計画的に実施し、望ましい勤労観や職業観を養い、主体的に進路選択できる力を育成する。
- 5 校外学習・移動教室・修学旅行では、主体的・協働的に取り組み、積極的に社会に参画する力を育成する。
- 6 学校レガシー2020として、「ボランティアマインド」、障害者理解、国際感覚の醸成に努め、共生社会を形成者していく力を育成する。

育てようとする資質や能力及び態度

知識及び技能		
第1学年	第2学年	第3学年
・自ら課題を見つけ、課題解決に向けての情報収集や情報分析等の基礎的な力をつける。	・収集した情報をまとめ、適切に発信できる力をつける。	・今までの学習をより探求する中で、将来の目標に活用できる力をつける。
思考力、判断力、表現力等		
第1学年	第2学年	第3学年
・体験的活動を通して、自らの生き方を考える。 ・さまざまな活動を通して、協力する姿勢を育む。	・体験的活動を通して、自らの生き方を考える。 ・さまざまな活動を通して、主体的、創造的な態度を育む。	・将来の目標をもとに、自らの生き方を考える。 ・自らの課題に対して、主体的に探求しようとする態度を育む。
学びに向かう力、人間性等		
第1学年	第2学年	第3学年
・地域社会への理解と郷土愛を育む。 ・様々な立場の人から学ぶとする態度を育む。	・地域社会への理解と郷土愛を育む。 ・将来を展望し、共生について考える。	・地域社会への理解と郷土愛を育む。 ・個を認め、互いに協同して、共に生きていく力をつける。

内 容	学習対象	学習事項
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> ・地域伝統や文化のすばらしさを体験する。 ・自然との関わりと収穫の喜びを体験する。 ・さまざまな立場の人々の生活を知る。 ・地域社会に貢献し、地域のよさを再発見する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉体験学習・職業調べ学習・ボランティア活動 ・校外学習 ・SDGs学習「はっけん・気付く」
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> ・自然の美しさや恩恵や歴史文化のすばらしさを知る。 ・将来の夢や職業や仕事の意味について考える。 ・さまざまな立場の人々と共に生きる社会。 ・地域社会に貢献し、地域のよさを再発見する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・移動教室・校外学習 ・職場体験学習 ・進路学習 ・SDGs学習「つながる」
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の古都の自然と歴史からわが国のよさを知る。 ・将来の目標実現のための道筋を考える。 ・自己の課題と解決方法についてまとめる。 ・地域社会に貢献し、地域のよさを再発見する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・修学旅行・校外学習 ・進路学習・キャリア教育講演会・面接練習 ・SDGs学習「えがおを創り出す」

学習活動	指導方法	指導体制	学習の評価
各学年の学習テーマ 1年→地域、職業と福祉の基礎 2年→環境、職業の応用 3年→生き方・3年間のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・教科との関連強化の推進やゲストティーチャーの有効活用の工夫。 ・言語力の強化を図るために、使用するワークシートや資料等の工夫。 	運営委員会、分掌部会、特別委員会の連絡調整を密にとり、総合的な学習の支援体制を確立する。	観点の適正化と評価方法や規準の設定。